

中学校の体育授業におけるコミュニケーション能力を高める方策  
A study of methods to enhance the communication skills in junior high school physical education

1K09B006-1 阿部俊太郎

指導教員 主査 吉永 武史先生 副査 深見英一郎先生

【序章】

集団はコミュニケーション能力を育てる重要な機能を持ち合わせているが、現代社会においては、都市開発やテレビゲーム、インターネットの発展によって、集団で過ごす機会そのものが減少してしまっている。そのような現代社会において、学校は集団生活を送ることができる数少ない場であり、子どもたちが身体活動を伴いながら仲間とかわり、コミュニケーション能力を育てる場が体育の授業である。なお本論文における「コミュニケーション」とは、「目的や課題を明確に認識し、それを達成、改善するための方法についての考えを言葉・文字・身振りなどによって伝達・交換する相互作用」とする。私は体育授業内でコミュニケーション能力を高めることによって、我が国が目指す人材の育成を達成し、また学校が抱える問題を解決できると考えている。本研究は、学校体育においてコミュニケーション能力を高めることについての検討を目的とし、それが明らかになることで、生徒たちの学校生活や、将来の社会生活に好影響を与える可能性が見出せることに本研究の意義がある。

【第1章】

第1章では、経済産業省が社会人基礎力(2006)として挙げている「チームで働く力」(チームワーク)、そして学習指導要領(文部科学省,2008,P.16)が明記している「コミュニケーション能力」は共通したものと考えることができ、またそれは現代の学校現場が抱えるいじめ問題を解決する上でも必要とされているものであることを述べた。コミュニケーション能力を高めることは、現代社会の学校に求められている欠かせない機能だといえる。しかし現在の学校は、基礎的な学力や専門知識を身につける機会は数多くある一方で、集団内でコミュニケーション能力を高める機会を生かし切れていないのが現状である。その中で学校体育は、「1、グループ(集団)としての活動場面が多い 2、勝敗をとまなうことによる葛藤場面が多い

3、技能向上に向けた協力・支援活動が多い 4、言語の自然表出場面が多い 5、めあての明確化による感動場面が多い」(小谷川,2010,P.227)などの特徴を有し、それらは生徒たちがコミュニケーション能力を培ううえで非常に有効であることを結論付けた。

【第2章】

第2章では、我が国の学校体育における学習形態の種類と特徴を述べ、さらに体育の授業内でコミュニケーション能力を培うための条件として、肯定的な授業の雰囲気(白石,2008,P.48)、学習規律(梅垣ほか,2011,pp.158-159)、リーダーシップ機能(城後ほか,1999,pp.68)が必要であることを結論付けた。それらを満たすことによって、生徒たちは体育の授業内でコミュニケーション能力を培うことができる。また体育の授業は保健体育教師の役割が非常に大きく、教師は自らの役割の大きさを自覚し、指導力を高めていかなければならないことを示した。

【第3章】

第3章では、生徒同士の関わりが生まれにくいと考えられる個人的スポーツにおいても、コミュニケーション能力を高めることができることを、器械運動、陸上、武道における実際の授業実践の例を挙げながら述べた。実際の授業では、個人的スポーツを集団化し、演技の充実や勝利の集団的達成を課題とする。その過程で、第2章で挙げたコミュニケーション能力を培う体育授業の条件(肯定的な雰囲気をつくる、体育授業内の学習規律を決定する、リーダーシップ機能を発揮させる)を含むことで、コミュニケーション能力を高める授業を形成していた。したがって、体育の授業における個人的スポーツの授業は、教師の工夫次第で生徒のコミュニケーション能力を高めることができることを示した。ゆえに保健体育教師は常に研究を重ね、生徒によりよい学習を提供していく必要があることがいえる。